新規化合物「プロピリスルフロン」と「ピラクロニル」の2成分で、ノビエをはじめSU抵抗性雑草・難防除雑草に優れた効果。

水稲用初・中期一発処理除草剤
「メガゼータ」

「メガゼータ」は広い草種に安定した効果を発揮する除草剤です。
3剤型（フロアブル、1キロ粒剤、ジャンボ）で、多様な使用方法に対応。
北海道の水稲栽培を支えます。

特長

「メガゼータ」は住友化学（株）が開発した新規有効成分「プロピリスルフロン」と協友アグリ（株）の原体である「ピラクロニル」を含有する初・中期一発処理除草剤です。

両有効成分を合理的に配合したことで、幅広い雑草に安定した効果を発揮します。

各有効成分の特長と効果

《プロピリスルフロン》 プロピリスルフロンは、ノビエ、一年生広葉雑草、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサ、オモダカといった幅広い雑草に対する除草効果に優れ、従来のスルホニルウレア系除草剤抵抗性（SU-R）雑草にも有効という特長を有しています。

《ピラクロニル》 ピラクロニルは、ノビエをはじめ一年生広葉雑草、難防除雑草のオモダカにも効果を表します（表1）。

上手な使い方

本剤は、ノビエ3葉期に対しても効果の高い剤です。ミズアオイに対しては1葉期と2葉期の処理を比べると1葉期の方が安定した効果を示します。ミズアオイの多発生圃場では早期の処理がおすすめです。オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な初期処理剤、中期処理剤または後期処理剤との組み合わせでの体系処理が効果的です（表2）。

本剤が稲体に付着した場合、付着部分に褐変・葉枯れを生ずる恐れがありますので、薬剤が霧状となり稲に付着しやすくなるノズル散布などは避けてください。

■表1 各草種の処理ステージにおける「メガゼータ」の効果

薬剤名	有効成分	使用時期	使用量および使用方法	土壌条件	使用回数	対象雑草											
						ノビエ	一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	ヘラオモダカ	ウリカワ	ヒルムシロ	エゾサヤ	セリ	オモダカ	Rミズアオイ	Rアゼナ
メガゼータ フロアブル	ピラクロニル3.9% プロピリスルフロン1.7%	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	500ml/10a 原液 湛水散布	砂壌土～壌土	1	◎ 3葉期	◎	◎	◎ 3葉期	◎ 3葉期	◎ 2葉期	◎ 発生期	◎ 2葉期	◎ 再生始	◎ 発生始	◎ 1葉期 ○ 2葉期	◎ 2葉期
メガゼータ 1キロ粒剤	ピラクロニル2.0% プロピリスルフロン0.9%	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	1kg/10a 湛水散布	砂壌土～壌土	1	◎ 3葉期	◎	◎	◎ 3葉期	◎ 3葉期	◎ 2葉期	◎ 発生期	◎ 2葉期	◎ 再生始	◎ 発生始	◎ 1葉期 ○ 2葉期	◎ 2葉期
メガゼータ ジャンボ	ピラクロニル5.0% プロピリスルフロン2.25%	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	40g×10/10a 水田に小包装（パック）のまま投げ入れる	砂壌土～壌土	1	◎ 3葉期	◎	◎	◎ 3葉期	◎ 3葉期	◎ 2葉期	◎ 発生期	—	◎ 再生始	—	—	◎ 2葉期

除草効果（対無処理） ◎:90%以上 ○:80～89% △:60～79% ×:59%以下 —:未実施 R:SU抵抗性雑草 （北海道での委託試験成績から引用）

■表2 各草種の生育の目安と散布適期

5月中旬	5月下旬		6月上旬		6月中旬		7月下旬
代かき後日数 5日	10日	15日	20日	25日	30日	55日	
移植後日数 0日	5日	10日	15日	20日	25日	50日	
ノビエ →	始	1L	2L		3L		
ホタルイ →		始	1L	2L	3L		
ミズアオイ →		始	1L	2L	3L		
	メガゼータ						
十オモダカ →	・・・	発生始 →	→	→	→	→	
体系Ⅰ 体系Ⅱ		メガゼータ		ピラクロニル剤		後期剤	
体系Ⅲ	ピラクロニル剤		メガゼータ				

■住友化学株式会社

病害防除の一番手。

畑作用殺菌剤
「プライア水和剤」

ベンズイミダゾール耐性菌に負の交差耐性を示すジエトフェンカルブを含有。
耐性菌発生地域でも安定した効果が期待できる殺菌剤です。
耐雨性に優れており、散布後の雨の影響を受けにくいのが特徴です。

特長

①耐性菌にも高い効果
本剤はベノミルとジエトフェンカルブの2成分を混合した新規殺菌剤です。ジエトフェンカルブを配合する事により、ベンズイミダゾール耐性菌にも優れた効果を発揮します。

②幅広い殺菌スペクトラム
小豆、いんげんの主要病害である、灰色かび病、菌核病に加え、炭疽病にも高い効果があります（表3）。

③予防効果、治療効果（病斑進展阻止効果）
病気の感染前、感染直後の散布のいずれにおいても優れた防除効果を示します（表4）。

④優れた耐雨性
雨に強く、散布後の降雨にも影響を受けにくい薬剤です。

⑤水溶性パック包装
薬液を調合する際に作業がしやすい水溶性パックタイプの包装を採用しています。

■表3 適用病害と使用方法

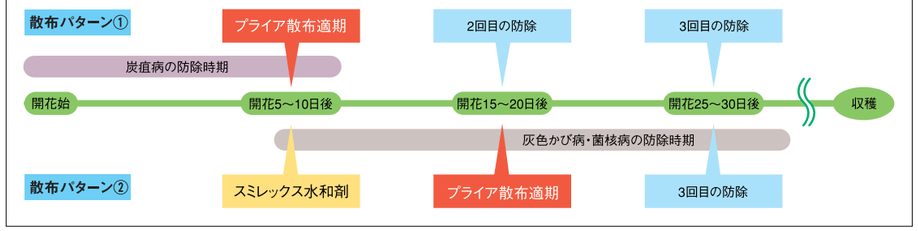
有効成分：ジエトフェンカルブ…25.0% ベノミル…25.0%

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジエトフェンカルブを含む農薬の総使用回数	ベノミルを含む農薬の総使用回数
いんげんまめ	灰色かび病 菌核病	1,000	100～300ℓ／10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内	5回以内（種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内）
あずき	灰色かび病 菌核病 / 炭疽病							

（2011年11月時点の登録内容）

■表4 上手な使い方

いんげんまめ・あずきの灰色かび病・菌核病防除には計3回の薬剤散布が推奨されています。
なかでもプライアは1回目または、2回目の散布が効果的です。



■住友化学株式会社